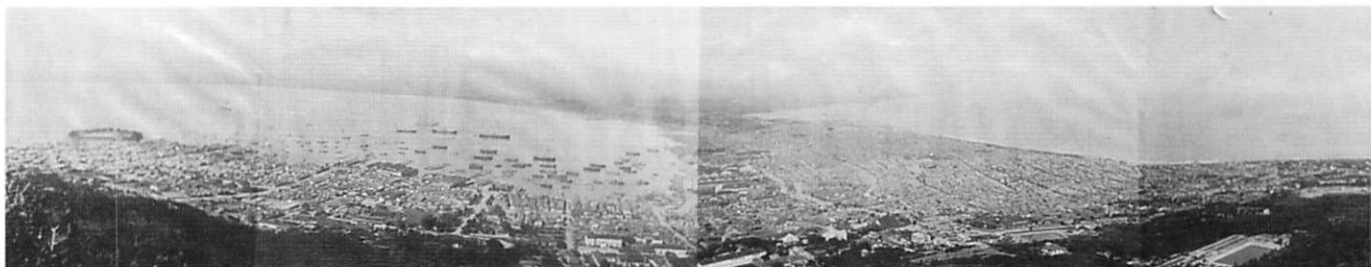


市立函館博物館報サラニップ

SARANIP

No. 39 2000.3.31

パノラマ写真にみる明治・大正の函館



函館全景写真(明治期)



最新函館全景(大正期)

函館は、横浜、長崎とともに写真技術を受容した開港期以来の歴史を持っていることから往時の函館を写した写真が当館をはじめ数多く残されています。ここでは函館山から撮影された市街のパノラマ写真のうち、明治・大正期のものを各々1点ずつ紹介します。

上段の「函館全景写真」は4枚の印画紙をつなぎあわせたものです。市立函館図書館所蔵の「函館港全景」(明治24年撮影)に似ていますが、内容は明らかに異なります。いつ頃のものかを写真から読み解いてみましょう。

右下方に無蓋の高区配水池がみえます。これは明治27年に着手し、29年に竣工した水道増設工事の中で完成されたものです。また左側の函館港の入口に旧弁天砲台がみえ、その周辺に浮標が設置されています。これは29年6月着工の港湾改良工事の海面堰き止めの様子を撮りだしたものです。また29年8月に2千戸規模の大火が弁天町で発生しますが、写真では被災した痕跡がありません。これらの状況から、この写真の撮影時期は29年6～8月の間といえます。なお砲台の解体

工事もこの時期に行われ、31年に完了して、その姿を消します。

下段は「最新函館全景」とタイトルが付けられており、こちらは印刷されたものです。同じく撮影時期は不明ですが、左欄に官公署や学校、銀行などの主要建築物が紹介されているほか人口が11万5010人とあります。これに最も近い数字は大正6年末(同年「函館区統計」)ですから、大正7年に作成されたものと考えられます。ちなみに大正9年に建設された高層の特徴的な万世ビルが画面にはありません。発売元が松吉絵葉書店と表記されています。同店は末広町で文房具・和洋小間物を兼業し、絵葉書も製作して販売していました。同店発行の絵葉書は最近でも寄贈されることがあります。

なお、両者を比較して一目瞭然なことは撮影地点の相違です。大正期のものは、この写真に限らず山裾で撮影されていますが、これは明治32年の「要塞地帯法」により函館山が要塞化され、写真撮影に規制が加えられるようになったことと関係があると思われます。

菅原 繁昭

平成11年度特別企画展報告

霜村 紀子

漫画界の総理大臣

岡本一平



特別企画展では漫画家・岡本一平を取り上げ、6月1日から8月22日まで本館を会場に開催し、3,195人の方々にご観覧いただきました。

岡本一平は明治19年函館に生まれ、明治から昭和にかけて朝日新聞紙上で活躍し、“総理大臣の名前は知らなくても一平の名は誰もが知っている”といわれる有名な漫画家でした。昭和23年に62歳で生涯を閉じ、最近では画家・岡本太郎の父、小説家・岡本かの子の夫として知られる存在になっていましたが、没後50年を機に川崎市で回顧展が開催され、漫画家・岡本一平が現代マンガのパイオニアとして再評価されました。今回はご遺族と川崎市市民ミュージアムのご理解とご協力により、生まれ故郷の函館に110年ぶりに里帰りすることができました。

展示は4つのコーナーから成り、「岡本家と函館」では岡本家一平、父竹二郎、母正一の生い立ちと明治期の函館を地図や写真で紹介しました。竹二郎は明治17年函館に渡り、函館師範学校で書記兼助教諭として採用され、明治22年に函館を去ります。この5年の間に開拓使函館支庁職員の娘正と出会い、結婚し、長男一平が誕生したのです。

「漫画家岡本一平の活躍」は膨大な量の一平漫画から、漫画漫文・似顔絵漫画・ストーリー漫画・肉筆戯画などいくつかの面を紹介しました。

「家族の肖像」では一平・かの子・太郎の3人の芸術家が互いに影響し支え合って、次々と才能を開花させていく様子を紹介しました。

「漫画の世界——一平から現代まで——」では、一平漫画の影響を受けた漫画家について一平塾や東京漫画会の活動を通して紹介しました。

年輩の方にはなつかしく、初めてみる方には新鮮な一平漫画となり、時間をかけてじっくり観覧される方が多かったのが印象的でした。

平成11年度特別展報告

佐藤 智雄

戊辰戦争終結130周年

戊辰戦争



戊辰戦争終結130周年にあたる本年、五稜郭分館を会場に『戊辰戦争—鳥羽・伏見から箱館まで—』が開催されました。この特別展は、8月3日から9月26日までの48日間を会期とし、開催期間中に24,017人の市民や五稜郭を訪れた皆様から観覧を受けました。今回の特別展の特色は戊辰戦争そのものに注目し、江戸から明治に変わってゆく時代の大きなうねりが体感できるような構成をとったことと、戊辰戦争を取り巻く時代背景としての民衆や、武士と共に戦争に協力したもう1人の主人公ともいべき農民の動きにも着目したことがあげられます。

資料では、今回の特別展のシンボルともいえる木砲2基（霊山歴史館・二本松市歴史資料館蔵）を中心に、108点の資料を展示しました。中でも、箱館戦争によって戦利品として持ち去られ、130年ぶりに里帰した箱館東照宮扁額は、多くの観覧者の興味を引く存在でした。

戊辰戦争は、慶応4年、洛南の鳥羽・伏見で幕府軍と薩長連合軍が衝突したことをきっかけに、蝦夷地を含めた東日本全域が戦場となります。上野戦争は、わずか1日で決着しますが、多くの民衆が戦闘に巻き込まれています。北陸全土が戦場となった北越戦争では、敗れてもお戦い続けるために会津へとむかう武士達の姿を浮き彫りにしました。義を旨とし、城の守備隊が全滅した二本松藩、対照的な行動をとることで1人の死傷者も出なかった三春藩はまさに東北戦争での明暗をあらわしました。また、子供達の姿を借りた戊辰戦争の風刺画や戯れ絵のユーモラスな図柄は好評で、観覧者の興味を十分そそる資料でもありました。

戊辰戦争終結の地となった箱館で、改めて戊辰戦争展を開催することにより、この街のシンボル「五稜郭」の存在と、函館の持つ歴史的風土を再認識していただけたものと思っております。

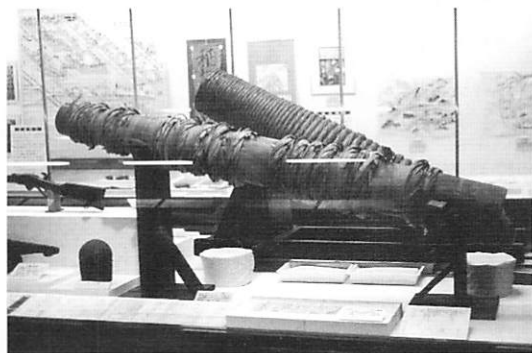
新館に向けて はじめての一步③



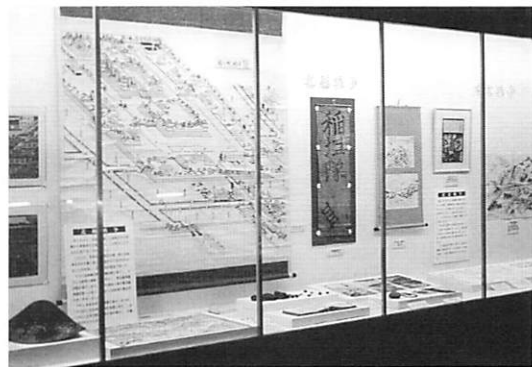
岡本一平が描いた似顔絵の数々



岡本家と函館のつながりをみる観覧者



霊山歴史館・二本松市歴史資料館蔵の木砲



北越戦争から東北戦争へ

新館整備に向けた取り組みとして、他館の運営状況を調査するために、平成11年1月に3回目の視察を行いました。今回は、開館間もない施設として、団地との合築を採用した東京都の東村山ふるさと歴史館と埼玉県立のさいたま川の博物館、既存の施設として開館後約10年経過した川越市立博物館と約20年経過した大宮市立博物館の4館を訪問しました。それぞれの館の特徴と開館前と開館後の状況変化、さらに、開館後の経過と問題点についてお話を伺いました。

東村山ふるさと歴史館は、郷土資料館の老朽化によるものですが、予算上の問題から最近まで改築を見送られていたようです。しかし、「都営住宅建て替え事業に乗った」ことで、団地との合築というユニークな発想で建設を可能にしました。建物は住宅部分と区別できるように外観上変化を持たせています。合築は、資料保存・管理など博物館機能の一部が制限されているものの、今後、検討が想定される一つの方法かと思われます。

大宮市立博物館は、寝泊まりだけの街(大宮ホテル)に住む子供たちに、「大宮市や埼玉県の歴史を教える」ことを主眼に開設されました。当時としては「埼玉県の市町村立では初めての専門職を配置した博物館」だったようです。開館後、他の多くの館が抱えていると同様、入館者の伸び悩みに苦慮していましたが、10年ほど前から学校教育と協力し、学校のカリキュラムの中に取り入れてもらうなど教育普及に力を入れることで、結果的に、平成7年度の入館者が平成2年度の6倍強になるなど、博物館入館者の増加に結びついています。

4館を訪問し感じたことは、各館が東京都と埼玉県に分かれていても、同じ武蔵野に含まれていることもあり、文化的考え方が似通っていると同時に、郷土の博物館という意味で博物館を積極的に活用するなど、教育的に非常に熱心な土地柄という印象を強く受けました。

佐藤 理夫



東村山ふるさと歴史館外観

平成11年度 民俗資料調査 報告

保科 智治

今年度、民俗調査は具体的な形で動き出しました。平成10年度に予備調査からスタートし、平成13年度までの4年間で調査を行う計画になっています。

実施にあたって、武蔵野美術大学教授神野善治氏・青森県立郷土館学芸主幹昆政明氏のご指導・ご協力をいただき、調査方法などを意見交換しながら進めています。

この調査を実施する背景には、博物館に収蔵されている民俗資料が寄贈によるもので、年代・地域などがまちまちであること。また、函館地域の「生活の営み」を系統的に調査する機会が少なかったことなどがありました。年代設定は昭和初期～高度経済成長期前を目安に、地域設定は「都市」「農村」「漁村」に区分しました。「都市」については、現段階において調査対象が具体化されていないため、次の段階にずれ込む可能性があります。

今年度は、「漁村」「農村」調査を実施しました。



木村番屋前にて

「漁村」調査は8月11日から20日にかけて、市内古川町の「番屋」に残された漁具について行いました。これら漁具は、大正末期から昭和30年頃まで行われたイワシ漁に使用されたものです。

調査には神野・昆両氏に参加していただくとともに尾崎渉（函館市青少年研修センター）、奥野進（函館市史編さん室）、渡辺文子（函館市北方民族資料館）の各氏、久保輝喜・宮本直弥・富樫広介・中島正義・佐々木康・水藤亮子・山口敦之（北海道教育大函館校）、伊藤聡美（鶴見大学）、西村亜希子（札幌大学）、川岸沙綾夏（駒澤大学）・弦巻由美（愛知教育大学）の博物館実習生にもご協力をいただきました。

今回の調査では、番屋内のどこにどのような道具がどれだけ残っているのかを把握する必要がありました。作業は資料1点ごとに番号札を付け、清掃・採寸・スケッチ・撮影を行った後に元の場所へ戻すという流れで行いました。調査の結果、資料件数は約700件を数え、詳細な分類までは行っていないが、イワシ漁に関する資料の他、コンブ・イカに関する資料が多数あることが分かりました。

「農村」調査は9月7日から16日にかけて、市内の郷土史研究団体「亀田史談会」が主に市内神山周辺から収集した農具および生活用具について行いました。

調査には昆氏に参加していただくとともに、伊藤岳志・水木博和・奈良美和・木村隼也・石田典子・梶谷晃子・宮崎洋美（北海道教育大学函館校）、市川郭樹・佐藤全（帝京大学）の博物館実習生にもご協力をいただきました。

作業は漁具調査と同様、清掃・採寸・スケッチ・撮影を行い、資料件数は約200件を数えました。分類すると、衣食住に関する資料が約90件、農耕に関する資料が約40件、馬具が約50件、その他約20件の資料となります。馬具については鞍や手綱など各種のものが残っており、またこの資料群には含まれませんが、神山周辺で使用されていた馬そりの存在についても調査することができ、往時の馬そりの使用状況やその役割の重要性を確認することができました。



農具を前に亀田史談会の方たちと

亀田史談会収集資料については会から市へ寄贈となり、現在学校の空き教室を活用し収蔵展示しています。今後資料に説明文や使用方法の図などを設置し、学校における地域学習の素材として活用できる状態にする予定です。

民俗調査3年目の来年度は、今年度に引き続き古川町および神山周辺での聞き取り調査を行います。漁具資料については番屋内に残したままであるため、その状況確認調査と今後の活用方法について具体化していく予定です。

最後になりましたが、今年度の民俗調査ではいろいろな方にお世話になりました。漁具の調査では、町内の木村喜代五郎氏に資料の聞き取りなど多岐にわたってご協力をいただきました。また、番屋の管理をされている木村キワ氏にも休憩場所の提供をしていただきました。農具・生活用具の調査では、亀田史談会の会員の方々と保管先の長崎ミサ氏には休憩場所の提供をしていただきました。この場をお借りしてご協力いただいた皆様にお礼を申し上げたいと思います。

平成11年度博物館講座報告

新企画「体験する土2・4」から

昔の函館を見よう一語る大正・昭和の絵はがきたちー

平成11年度博物館講座の一環として、今年度から新たに「体験する土(ど)2・4講座」を開設することになりました。これは、学校週休二日制に伴う第二・第四土曜日を小中学生の自主的課外学習の場として博物館で楽しみながら自由に学んでもらおうというものです。この講座は、これまでの一連の博物館講座と多少異なり、あえて定員を設定せずに決められた時間に直接会場へ集合といったスタイルで、自然から歴史、民俗、考古、美術等々の幅広い分野に及んで実施されました。小中学生対象の講座とはいえ、大勢の一般参加者も歓迎されたことは言うまでもありません。

体験する土(ど)2・4のトップバッター「昔の函館を見よう一語る大正・昭和の絵はがきたちー」は、当博物館所蔵の数ある資料のうち、歴史、民俗資料の大正・昭和期の絵はがきに焦点をあて、大正・昭和の時代を駆け抜けた函館の街の様子を絵はがきを通して体感してもらおうというものです。館蔵品の絵はがきを展示し観覧していただくとともに、スライドを上映しながら街並みの移り変わりや風俗の変容を大正から昭和へと垣間見ていただいたわけですが、博物館がきっかけを与え、発見する場と言われるように、単に時代の移り変わりを知ってもらうだけでなく、絵はがきから何が読み取れるかその観察、発見の醍醐味と記憶に古くて新しい事実の確認を再認識できた絶好の機会だったといえます。スライド上映での迷解説に加え、

それに観入る参加者との大正・昭和期における「古き佳き時代函館」への一問一答のタイムスリップは、博物館ならではのスペシャルメニューだったのではないのでしょうか。そして何よりも本講座の最大の成果は、参加者と主催者が映し出される被写体の中で語り合いながら大正・昭和という時代の函館の存在感を共有し合えたことの一言に尽きます。

なお、「体験する土」の名称は、「体験するぞ」の函館なまりバージョンであることを申し添えておきます。

長谷部 一弘



昔の函館の町並みを興味深げに見る参加者

平成11年度博物館講座開催表

単 講 座

No.	講 座 名	開 催 期 日	参加数
1	春の星座観測	5月14日(金)	19
2	探検!!もつと知ろう函館山	6月13日(日)	8
3	展示解説セミナー「岡本一平」	6月27日(日)	38
4	自然体験バスツアー 横津岳の自然観察	6月20日(日)	46
5	七夕の星を見てみよう	7月2日(金)	22
6	五稜郭公園のいきもの地図を作ろう(2回連続)	7月4日(日) 11日(日)	19
7	体験学習 土器を作ってみよう(2回連続)	7月18日(日) 8月1日(日)	37
8	夏休み自由研究「色を作って絵を描こう」	7月25日(日)	15
9	夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」	7月28日(金)	51
10	親子で行く自然体験キャンプ(1泊2日)	8月10日(火)・11日(水)	18
11	夏休み自由研究「五稜郭探検隊」	8月13日(金)	15
12	展示解説セミナー「戊辰戦争」	8月14日(日)	63
13	植物画を描く(3回連続講座)	8月28日(土)・29日(日)・9月12日(日)	15
14	秋の星座と中秋の名月観望会(共催)	9月22日(土)	22
15	ひな人形をつくろう	2月20日(日)	13

体験する土2・4講座(第2・第4土曜日開催)

No.	講 座 名	開 催 期 日
1	昔の函館を見よう一語る大正・昭和の絵はがきたちー	5月8日(第2土)
2	なつかしのヒーローヒーロー映画ビデオ上映会ー	6月26日(第4土)
3	漫画の歴史ー漫画を描いてみようー	7月10日(第2土)
4	ほのぼの「手作りおもちゃ」を作ろう	7月24日(第4土)
5	生きものミニ講座ー生きものってなあに?ー	8月14日(第2土)
6	「芸芸小話」ー紙芝居で見る箱館戦争ー	8月28日(第2土)
7	博物館資料に触れてみようー大砲の弾は重いかな?ー	9月11日(第2土)
8	ふるいレコード(SP)を聴こう	9月25日(第2土)
9	おもしろ縄文体験ー土器の文様を作ってみようー	10月23日(第2土)
10	博物館の仕事と裏側探検ーふだん見られない収蔵庫公開ー	11月27日(第2土)
11	いもでスタンプをつくろう	12月11日(第2土)
12	冬の遊びを体験しようー竹すべりをしてみようー	1月8日(第2土)中止
13	冬芽を観察してみよう	2月12日(第2土)
14	博物館ミニひなまつりー館蔵ひな人形を見ようー	2月26日(第4土)
15	函館大火を知っていますか?ー函館大火をもっと知ろうー	3月11日(第2土)

ワークショップ(通年講座)

No.	講 座 名	開 催 期 日	参加数	No.	講 座 名	開 催 期 日	参加数
1	四季の星空観測	11年5月21日(金)~ 12年3月10日(金)	29	2	自然観察入門	11年5月23日(日)~ 12年3月12日(日)	36

職員の異動紹介

長谷川寿雄 博物館五稜郭分館長退職
 中川 強 環境部管理課労務係長
 →博物館五稜郭分館長
 尾崎 渉 博物館本館学芸係→青少年研修センター
 佐藤智雄 文化財課→博物館五稜郭分館
 保科智治 博物館五稜郭分館→博物館本館学芸係
 平塚重之 博物館本館嘱託職員採用
 新しい職場にやってきた学芸員二人のあいさつです。

佐藤智雄 発掘調査に熱中しておりましたが、再び分館へ戻ってまいりました。歴史・考古・民俗と北洋資料館を担当しております。「来館者にどれだけのサービスができるか」をモットーに精一杯やってみたいと思います。
 保科智治 本館では歴史と民俗を担当することになりました。山のように積まれた民俗資料には辟易しますが、さて片付けるか。

平成11年度新収蔵資料紹介

○寄贈資料

・レコード 他 92件420点
 【函館市・中川 圭子氏寄贈】
 ・箱館通宝 1件1点
 【札幌市・相坂 正紀氏寄贈】
 ・第1回港まつり写真 2件8点
 【函館市・町田 修氏寄贈】
 ・教科書 他 9件13点
 【函館市・藤野 清麿氏寄贈】
 ・電気炊飯器 1件1点
 【函館市・長谷部 一弘氏寄贈】
 ・記念スタンプ 他 101件158点
 【函館市・石倉 サキ氏寄贈】
 ・絵はがき 20件79点
 【函館市・高市 道也氏寄贈】
 ・瓶 1件1点
 【茅部郡森町・石橋 久子氏寄贈】
 ・モーニング一式 他 5件5点
 【函館市・湊 護氏寄贈】
 ・函館商船学校練習船修業日誌 1件1点
 【横浜市・植木 清明氏寄贈】
 ・飯ごう 他 12件12点
 【函館市・井上 清氏寄贈】
 ・エルゼ・メルスク号進水式記念品 他 2件8点
 【横浜市・久保田 智彦氏寄贈】
 ・緑樹(岩船修三画) 他 3件3点
 【徳島市・武内 文氏寄贈】
 ・賞状授与証 他 3件3点
 【東京都・徳永 清氏寄贈】
 ・ノスリ 1件1点
 【函館市・浅見 嘉吉氏寄贈】
 ・最新函館全景 1件1点
 【函館市・大川 清氏寄贈】
 ・茶碗 1件4点
 【函館市・鈴木 旭氏寄贈】
 ・風景(佐野忠吉画) 他 25件25点
 【東京都・岩田 治子氏寄贈】
 ・函館市勢要覧(昭和10年版) 1件1点
 【函館市・瀬川 潔氏寄贈】

・日本帝国海外旅券 他 41件103点
 【函館市・沖崎 陽子氏寄贈】
 ・小熊信一郎胸像 1件1点
 【三鷹市・小熊 勝夫氏寄贈】
 ・亀田史談会収集農機具・生活用具 203件224点
 【函館市・亀田史談会寄贈】
 ・山高帽 他 2件2点
 【函館市・真壁 西明氏寄贈】
 ・エゾバイ科化石 他 2件3点
 【函館市・鈴木 明彦氏寄贈】
 ・すし道具等一括 92件92点
 【函館市・佐々木 茂男氏寄贈】
 ・雪下駄 他 54件251点
 【函館市・藤井 正雄氏寄贈】
 ・根室・国後島間通信用海底ケーブル(切断部分) 1件1点
 【函館市・駒井 惇助氏寄贈】
 ・裁縫箱 他 28件102点
 【函館市・浜下 喜好氏寄贈】
 ・刺し子 他 7件7点
 【函館市・大上 養之助氏寄贈】
 ・カメラ一式・8mmカメラ 2件2点
 【函館市・吉田 省三氏寄贈】
 ・堤清六胸像 1件1点
 【東京都・株ニチロ寄贈】

○旧蔵資料(移管・新規登録)

・函館区史 他 340件1,251点

○購入資料

・蝦夷太平記挿絵(梁川剛一画) 1件51点
 ・村垣淡路守肖像画・村垣淡路守関係文書 2件2点
 (平成12年2月10日現在)

お知らせ

郷土資料館(旧金森洋物店)は北海道指定有形文化財としての復元工事を終え、2000年10月開館の予定です。新しく生まれ変わる金森洋物店にご期待ください。
 お問い合わせは、電話0138(23)3095まで。

ー誌名SARANIP(サラニップ)についてー
 アイヌ語:シナの樹皮で編んだ袋。
 博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。



SARANIPーサラニップーNo.39 2000.3.31発行
 編集・発行 市立函館博物館
 〒040-0044
 函館市青柳町17-1(函館公園内)
 TEL 0138-23-5480 FAX 0138-23-0831